



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

AI が環境問題を解決する？

「環境問題、AI 活用が鍵」



アジアの脱炭素を巡る取り組みなどを議論するシンポジウム「Asia Green Tech Summit (アジア・グリーンテック・サミット)」(日本経済新聞社、英フィナンシャル・タイムズ共催)が3月7日午前、シンガポールで開幕された。シンポジウムにはアジアで活動する企業経営者や投資家、政府や国際機関で気候変動対策に携わる専門家らが参加した。国際社会経済研究所で理事を務めている宇宙飛行士の野口聡一さんはインタビューで「人工知能(AI)は地球で何が起きているかを可視化し分析する鍵となる」と述べ、環境問題にテクノロジーを活用する重要性を指摘した。

脱炭素問題は地域によって状況が異なり「欧州の手法がそのままアジアに適用できるわけではない」としたうえで「(脱炭素の)世界的な目標を達成するために、それぞれの地域が独自の解決策を持つべきだ」と語った。アジアの脱炭素政策に関するパネル討論には、再生可能エネルギー関連の企業経営者や政府関係者が参加した。シンガポールの脱炭素コンサルティング会社、テラスコープのマヤ・ハリ CEO は「アジアには開発優先で規制導入を先延ばしにする国もある。気候変動の損失はアジアで特に大きく、政府の遅れによるリスクは深刻だ」と呼びかけた。

また、アジアに多い石炭火力発電所についても議論が行われた。アジア開発銀行(ADB)シンガポール事務所のダイレクターは「石炭火力の稼働年数を(当初計画より)短縮して、再生可能エネルギーの導入加速を支援する融資方法を提案している」と述べた。(日本経済新聞)



インタビューに答える野口聡一氏



パネル討論の様子

近年、AI の存在が私たちの身近に感じられる機会が増えてきました。しかし、AI によって将来人間の仕事が奪われる」と言われているように AI に対しネガティブな感情を抱く方も少なくありません。そんな AI ですが世界の課題である環境問題への解決の1つのツールになりうる可能性がある」と野口さんは仰っています。心理学の用語で「リフレーミング」というものがあります。これは物事や状況などの枠組み(フレーム)を変えることで別の視点を持つことができることを指した用語です。AI に対する負の側面の認識を変えて、便利なツールであるからこそ様々な場面において私たちの生活をサポートしてくれているのだとポジティブに捉えると従来の AI への考え方が変わってくるのではないのでしょうか。今後ものに支配されるのではなくどのように活用していくかを考える力が求められてきます。授業や生活を通じて考える力を高めていきたいです。(錦)